

特集 1

新春トップセミナー

オンライン

いのち輝く未来社会の実現に向けて ～アバターの果たす役割と大阪パビリオンを考える～

日時：令和4年 1月19日(水) 午後4時～6時

定員：約500名 オンラインセミナー 参加費／無料

主催：一般社団法人 生産技術振興協会

共催：一般社団法人 大阪大学工業会・(一財)ブルーオーシャンファンデーション

後援：大阪商工会議所・一般社団法人 関西経済同友会



開会挨拶

(一社)生産技術振興協会 理事長 堀池 寛

新年あけましておめでとうございます。

2022年の幕開けですが、3年目に入りました新型コロナウイルスとの戦いで5番目の新種オミクロン株への感染拡大で今年は始まっております。

昨今の岸田政権の発足と菅前総理大臣より始まりましたデジタル化、地球温暖化対策の強化が、わが国の経済社会に与える影響は、大変大きいと思われる。わが国の産業は長期的な低落傾向とよく言われていますが、実際は大企業中心の産業社会から規模はともかく、輝く技術力のある会社による新たな技術社会への移行時期とも考えることができます。これからの新しい技術を経営に生かして生産性をあげ、成長を続けるということが重要であります。例えば、米国発の百貨店ショーフィールズでは、店舗では商品の販売を目的にせず来店客に衣料品や化粧品などを試してもらっただけで、購入したいお客さんはネットで購入する。わが国でも

ZOZO でみられるようにすべてネットで販売するということがどんどん広がってきています。

医療もリモートで診療しネットで処方箋を届ける時代が目前にあると思われます。

大阪大学や各地の大学でも情報関係の研究が2000年ごろにいろいろ発足しました。理学や工学の分野をカバーし始めており、社会への適応が始まっているのが最近ではないかと思えます。例えば、ビッグデータという言葉に代表されるネットワークで集められる大量のデータを取り扱う科学が、そのような情報社会の広がりの一部を示しているのではないかと思えます。その先陣を切った滋賀大学のデータサイエンス学部を創設したのは、経済学者の佐和隆光先生であり、第2番目にできた横浜市立大学のデータサイエンス学部は政治や経済の専門家により創設されています。データサイエンスにみら

れるように情報関連の技術がやっとな社会構造に変化を与えることのできる形を整えつつあると考えることが出来ます。情報というのは、お金とか著作物とか小説とか音楽とか個人の持っている財貨と考えることができ、一方でデータとは個人的な情報を大量に集めた集合と考えることが出来ます。こういったことが今後の社会の大きな方向性を決めると思います。

このような変革の一例として、1964年の東京オリンピック、1970年の大阪万博で、わが国の高度成長のきっかけが作られたということがあげられると思います。昨年の東京オリンピックと2025年の大阪・関西万博の開催も同じように大きな社会の発展のきっかけになると考えています。しかし、その発展は70年代と現代では同じはずがなく、次の大阪・関西万博の社会の変革は広く、デジタル化や地球温暖化、バイオテクノロジーの我々の生活への直接的な変革・向上に役立つ技術発展が行われるものと予想することが出来ます。

そのようなこれからの方向性を考えていただくため、本日は2名の万博の総合プロデューサーを講師としてお招きしております。

2025年の大阪・関西万博は、「いのち輝く未来

社会のデザイン」をテーマに、「Saving Lives」、「Empowering Lives」、「Connecting Lives」の3つのサブテーマが設定されています。

このテーマをもとに、ご講演されるひとりは、ロボットがアバターとなって自分の代わりに出勤したり、いろいろなことが出来る、あるいは身代わりになって新しいことが出来る、という研究をされ、ロボットの世界的権威であります、阪大の石黒浩先生にご講演をお願いしております。

もうひとりは、大阪パビリオンの企画を担う推進委員会、総合プロデューサーの森下竜一先生から、仮想パビリオン「バーチャル大阪館」から実際の「大阪パビリオン」についてのお話しをお伺いいたします。

森下先生は医学部の先生で、ご自身でもアンジェスMGという会社を作られコロナ対応でもご活躍されています。そのお二人の講演の後には、関西経済同友会代表幹事の生駒京子様とサラヤ株式会社の更家悠介社長にご参加いただきパネルディスカッションを計画しております。

お二人のご講演とパネルディスカッションをお聞きし、今後の新たなアイデアをみなさまと共に考えていきたいと思っております。最後まで長丁場ですがお付き合いいただきますようよろしくお願い申し上げます。

